

Ⅳ まちづくりに関する 市民の意識

① 市民アンケート調査

近江八幡市第1次総合計画の策定にあたり、幅広い市民からまちづくりの意向について意見を収集し、本計画に活かすために市民アンケート調査を実施しました。

(1) 調査概要

図表Ⅳ-1 市民アンケート調査の概要

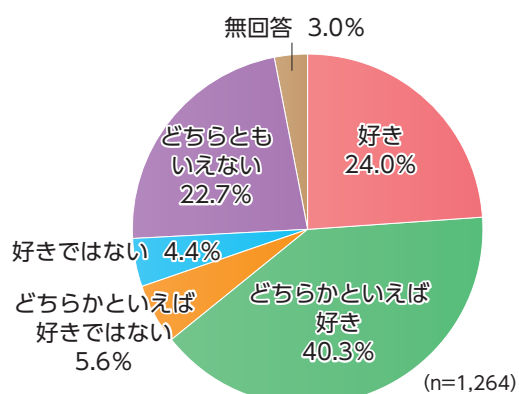
調査対象	無作為抽出によって選ばれた18歳以上の市民3,000名
調査方法	郵送により調査票を配布・回収
調査期間	2017年（平成29年）7月31日（月）～8月13日（日）
有効回収数	1,264票（全回収数から白紙回答を除いた数）
有効回収率	42.1%

(2) 本市への思いと居住意向

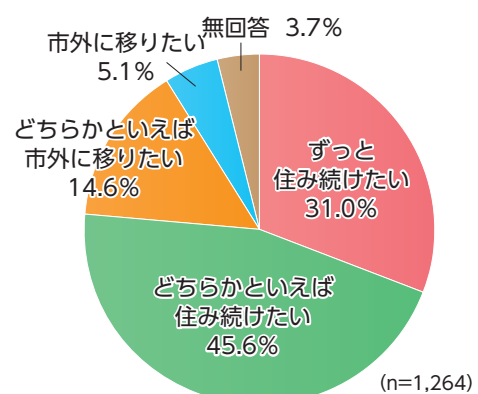
本市への思いとしては、「どちらかといえば好き」を含めると、60%以上の方から「好き」という回答を得ています。また、これからも住み続けたいか、という問いに対しては、「どちらかといえば住み続けたい」を含めると75%以上の方から「住み続けたい」という回答を得ています。

図表Ⅳ-2 本市への思いと居住意向

【近江八幡市のことが好きか】



【今後の居住意向】

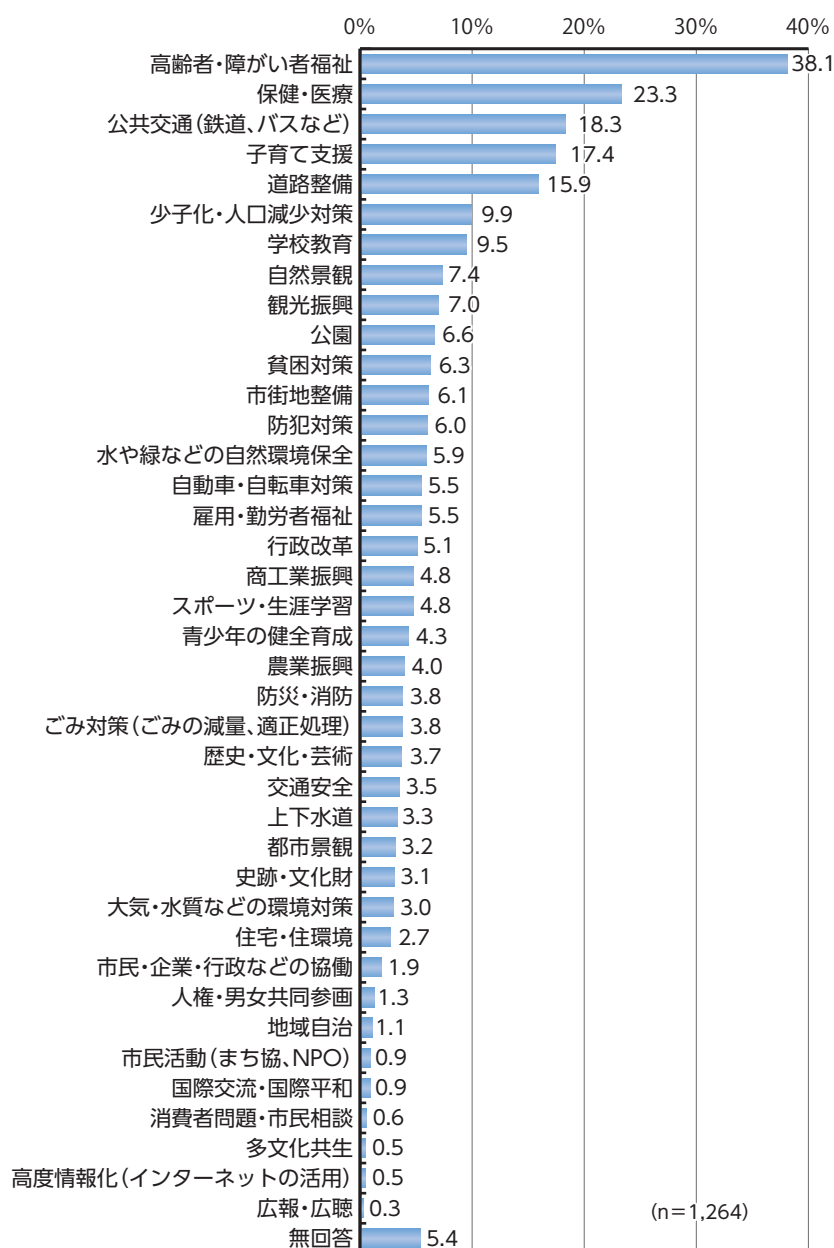


（資料）近江八幡市のまちづくりのための「市民アンケート調査」

(3) 10年後の近江八幡市に求めること

10年後の近江八幡市に求めること、については「高齢者・障がい者福祉」を挙げる回答が38.1%と最も多く、次いで「保健・医療」(23.3%)、「公共交通(鉄道、バスなど)」(18.3%)、「子育て支援」(17.4%)、「道路整備」(15.9%)の順となっています。

図表Ⅳ-3 10年後の近江八幡市に求めること

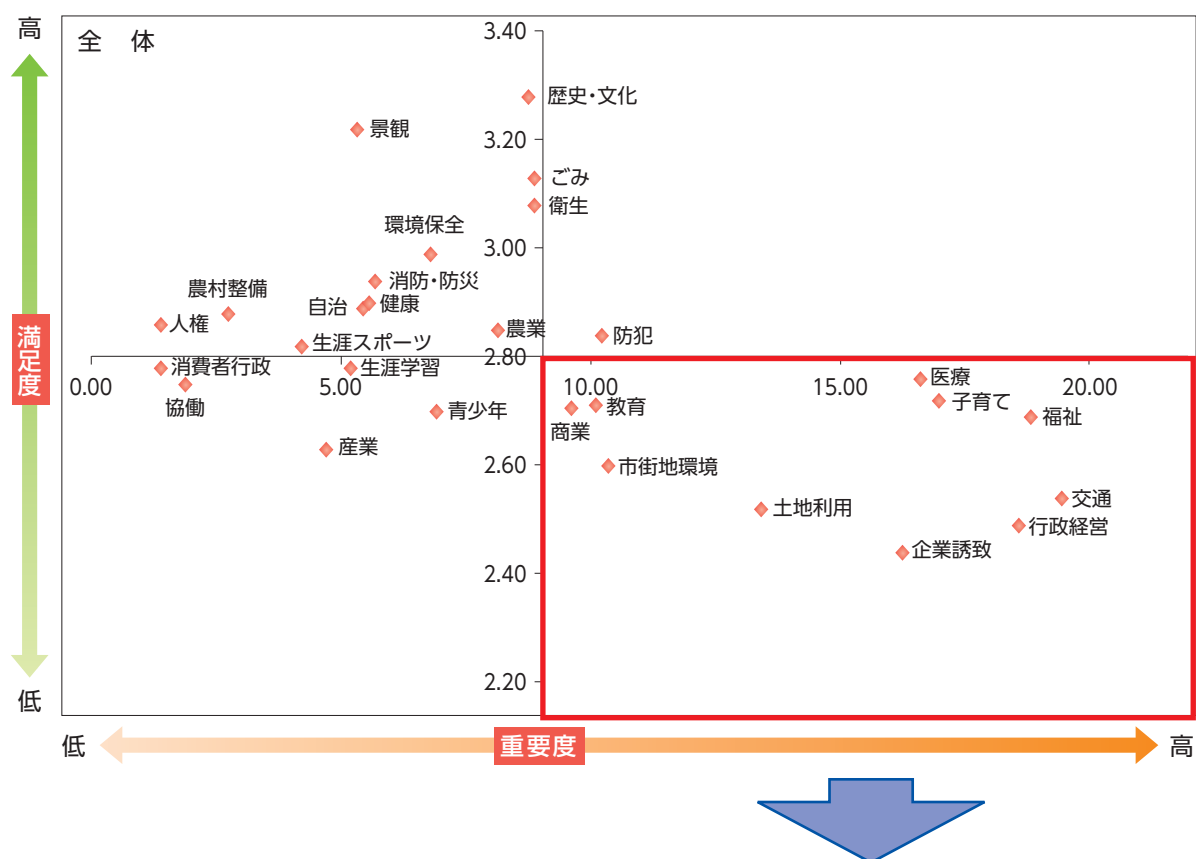


(資料) 近江八幡市のまちづくりのための「市民アンケート調査」

(4) 分野別の満足度・重要度からみる市民の意向

新市基本計画における施策分野を中心に、歴史・文化、環境保全といった、まちづくりの分野ごとの満足度（「大変満足」「満足」「どちらともいえない」「不満」「大変不満」の選択肢の回答率をもとに点数化したもの）と重要度（「力を入れるべき項目」として挙げた分野の回答率をもとに点数化したもの）を、4つの領域に分けて分析を行いました（図表Ⅳ-4）。市民が重要だと感じているにもかかわらず、満足度が低い分野については、特に改善すべきであると市民が感じている分野と言えます。それに該当する分野としては、「交通安全対策の推進と市内の移動基盤の整備・確保」「行政経営の推進」「福祉の向上」、「雇用と産業を創出する企業誘致の推進」が挙げられます。

図表Ⅳ-4 分野別の満足度と重要度の関係



「重要度」が高く「満足度」が低い
→特に改善すべきと市民が感じている分野

（資料）近江八幡市のまちづくりのための「市民アンケート調査」

2 市民ワークショップ(みんなの市民会議)

近江八幡市第1次総合計画の策定にあたり、市民と市役所の職員とが一緒になって本市の将来のまちの姿、具体的な分野における「ありたい姿」、市民と行政との協働の進め方などを議論し、その成果を本計画に活かすために「みんなの市民会議」と題した市民ワークショップを3回にわたって開催しました。

(1) 第1回「将来に向けた近江八幡市のキャッチフレーズを考える」

参加者から出されたアイデアの例

かわらない、なつかしい街

旧市街の町なみ、昔ながらのせまい道は不便だが、いっそ保存して、残してはどうか。

五感躍動 今昔都市 近江八幡

昔からあるもの、今から必要なものを両方大事にする。多くの人の五感を刺激する街をめざす。

人がつながり 支え合うまち 近江八幡

多世代が交流し、つながりができ、それによって福祉も厚くなるようなまちに

他人ごとにしらない大好きなまち近江八幡

誰かの困り事を他人事にせず、助け合いの心ある市民、行政であってほしい

(2) 第2回「『近江八幡のありたい姿』を考える」

各チームから出されたアイデアの例

「観光チーム」の考えたありたい姿

歴史と文化をつむぎ、めざせ観光立市近江八幡！

「産業活性化チーム」の考えたありたい姿

「安土」と「八幡」、「新しいもの」と「古いもの」を融合させ、「みんなで」にぎわいを創り出し、観光客に優しいまちをめざす！！

「医療・福祉チーム」の考えたありたい姿

子どもからお年寄りまでいきいきとすごせるまちをめざします！

(3) 第3回「市民と行政、どうすれば協働できるか」

参加者が本市で「取り組みたいこと」と、そこで協働する場合に市民が行政に期待すること

英語で観光ボランティアをしたい

大学生や地域住民にも参加してもらい、中国語が話せる人も確保して観光案内したい

→行政に期待すること：ボランティアや関係団体等の紹介、各団体のとりまとめ

幼い子どもと高齢者の交流を進めたい

子育てと福祉をつなぐ広場・サロンのようなものを作りたい

→行政に期待すること：場所の紹介、交通手段の確保、費用の補助

高齢者の健康づくりのための居場所づくりを進めたい

地元と福祉施設の協力を得ながら、高齢者の憩いの場づくりをしたい

→行政に期待すること：施設への働きかけ、市民への周知